

北海道上川郡東神楽町

# HIGASHIKAGURA

企業版ふるさと納税のご案内



北海道で一番の子ども王国

## 企業版ふるさと納税は

国が認定した地方創生プロジェクトに対して寄附を行った企業が法人関係税から税額控除を受けられるしくみです

東神楽町ではご寄附を通じた、地方創生の達成に向けたパートナー企業様を募集しています。

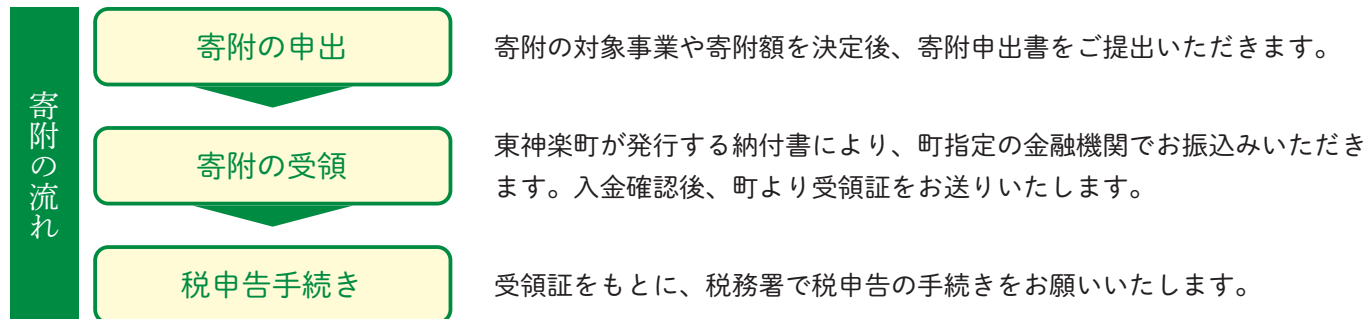


### パートナー企業のメリット

*Merit*  
社会貢献

*Merit*  
町からの  
ベネフィット

*Merit*  
町との  
パートナーシップ



町からのベネフィット

10万円以上

- 町公式ホームページで企業名、寄附金額を紹介
- お礼状の送付

30万円以上

- 町広報誌で企業名、寄附金額を紹介
- その他、10万円以上の寄附と同様

50万円以上

- 町主催イベントでのPRパネル展示（ひがしかぐら花まつり）  
※企業様がご用意いただいたPRパネルを展示します
- 複合施設はなのわデジタルサイネージで企業名、寄附金額を紹介
- その他、30万円以上の寄附と同様

100万円以上

- 東神楽町長との対談
- 感謝状の贈呈
- 報道期間へのプレスリリースの発信
- その他、50万円以上の寄附と同様

※町長対応は公務優先のため確約できるものではありません。あらかじめご了承ください。

※ベネフィットは希望される企業様に対して実施するものであり、必須ではありません。

## 東神楽町ってどんなところ？

- ・東神楽町は、雄大な大雪山連峰のふもとに広がる豊かな自然環境に恵まれたまちです。
- ・花と緑に囲まれたのどかな田園風景と旭川市に隣接した快適な住環境に加え、充実した子育て支援施策や先進的で特色ある学校教育により、人口に占める子どもの割合が北海道内でトップクラスを誇っています。
- ・また、「花のまち東神楽」としてオープンガーデンやボランティアの方々による植樹の整備を行うなど、住民の主体な活動が活発に行われていることが特徴です。



## 東神楽町が取り組む地方創生事業

こちらに記載のプロジェクトのほか「東神楽町まち・ひと・しごと創生推進計画」に位置づけている**すべての事業が対象**です。

応援したい事業の相談も行っておりますので、まずはお気軽にご連絡ください。

### 地域にしごとをつくり、安定した雇用の創出と未来を創る人材育成事業

地場産業の育成と新規創業支援を促進し、地域経済の活性化・雇用の創出を図ります。また、町の未来を担う人材育成に向けて、企業やNPOなど地域を支える様々な組織や高校・大学と協働し、郷土愛の醸成とグローバルな人材育成を推進します。

- ・地場産品販売促進事業
- ・国際理解教育推進事業
- ・特色ある教育活動推進事業



### 地方への新しい人の流れをつくる事業

旭川空港を活かし、道北の観光拠点として海外からの観光客の誘客を促進します。加えて飛行機に乗らない方も訪れたい魅力的な空港となるよう、民間事業者や関係団体と協力して推進します。また、東神楽町の「花のまち」を全国にPRするほか、ドライブなどで訪れる人々が地域の魅力を実感できるよう、景観整備などを進めるなど、交流人口の増加に資する取り組みを継続することにより、移住・定住を促進します。

- ・森林公園等整備事業
- ・花まつり開催事業
- ・花のまちづくり推進事業



### 地域で取り組む出産・子育て・教育の推進とだれもが活躍できるまちづくり事業

学校、家庭、地域が一体となり、妊娠期から子育て、保育、幼児教育、学校教育まで切れ目ない支援を行います。また、地域を支える全ての方が居場所と役割を持ち、活躍できる地域づくりの実現のため、社会教育の環境整備や地域自治の強化を図ります。

- ・子ども医療費助成事業
- ・子育て支援事業
- ・区町内会活動推進事業



### 安心な暮らしを守るとともに、地域間連携を図る事業

「花のまち」の取組みに加え、健康的に歩いて暮らせるコンパクトなまちづくり、環境への配慮、デジタル化を進めることにより、持続可能で安全・安心な住みやすい住環境づくりを推進します。このほか、「君の椅子」プロジェクトなどの広域的な取り組みを継続することにより地域間の連携を図ります。

- ・健康食育タウン事業
- ・育苗センター維持管理事業
- ・ゼロカーボン推進事業



## 未来への翼を広げて 異文化交流が育む国際感覚と世界への 挑戦の第一歩（東神楽町青少年台湾派遣交流事業）

東神楽町では、平成28年（2016年）から「青少年台湾派遣交流事業」として、東神楽中の生徒たちを台湾へ送り出しています。この取り組みは、台湾の歴史や文化、そして先進的な技術への理解を深めるとともに、現地の人々との交流を通じて、グローバル社会に対応する国際感覚を養うことを目的としています。

台湾滞在中、生徒たちは姉妹校である桃園市立大園国民中学を訪れ、授業に参加したり、給食を共に楽しんだり、さらにはホームステイを体験します。最初は

緊張気味だった子どもたちも、少し勇気を出して言葉の壁を乗り越え、お互いを理解し合えた瞬間には、輝く笑顔を見られます。その笑顔は、異文化交流がもたらす喜びと成長を何よりも物語っています。

さらに、この事業がきっかけとなり、海外への興味を広げた生徒たちが、高校卒業後に台湾やオーストラリアの大学へ進学するという素晴らしい事例も生まれています。子どもたちが世界に羽ばたくための第一歩を後押しする、貴重な経験と未来への架け橋となる事業です。



### インタビュー



#### 台湾で見つけた私の未来—異文化交流が変えた視点と可能性

私は以前から国際交流に強い関心を持っていました。特に台湾には、吹奏楽を通じて現地の学生たちと

交流した経験があり、「実際に台湾を訪れ、その文化や人々に触れてみたい」という思いが募りました。当時、日本でもタピオカドリンクやマンゴーかき氷が流行していたこともあり、台湾の魅力に引かれ、この派遣交流プログラムに応募しました。最も印象的だったのは、九份の夜景です。「千と千尋の神隠し」の舞台とも言われるその場所は、ライトアップされた建物が幻想的で、映画の中にいるような感動を覚えました。また、九份で有名な「芋圓（ユーエン）」というデザートも忘れられません。最初は戸惑いながらも、実際に食べると旅行中で一番美味しいと感じました。

この旅では、言葉の壁にも直面しました。当時、中学一年生だった私は英語の基礎的な単語しか知らず、台湾の生徒たちの流暢な英語と比べて悔しい思いをしました。英語の授業に参加した際、簡単な返答すら難しい自分に焦りを感じた一方で、新しい表現や単語に出会うことは刺激的でした。この経験は「もっと勉強しなければならぬ」という意欲を引き出し、その後の学習意欲を大いに高めるきっかけとなりました。また、言葉が通じないことで自分の考えを十分に伝えられない場面もありました。それでも現地の生徒たちと交流を続ける中で、直接の会話が持つ温度感や繋がり的重要性を実感しました。翻訳アプリでは得られない、相手の気持ちや空気感を共有する楽しさを体験したことは、言葉を学ぶ意義を改めて強く感じる瞬間でした。

文化の違いに戸惑うことはありませんでしたが、異文化に触れることで視野が広がり、多様な価値観を受け入れる大切

さを学びました。参加前は不安もありましたが、台湾でのプログラムを通じて、異なる文化の中で自分を表現し、他者を理解する楽しさを知り、それが挑戦する勇気を与えてくれました。また、他国の文化を知ることで、自分自身の文化についても深く考えるようになり、より広い視点を持つことができました。

この経験から台湾への興味はさらに深まり、中国語を学び始めました。そして現在では、台湾の大学に通い4年目を迎えています。台湾での生活を通じて、現地の文化や人々の考え方を深く理解すると同時に、多くの外国人とも交流し、日本を超えて世界に目を向ける重要性を実感しています。

将来的には、グローバル化が進むこの時代において、多国間の視点を持ちながら自分の意見を大切にしていきたいと思っています。この経験を通じて得た学びを活かし、異文化をつなぐ架け橋として活躍できるような人生を目指しています。